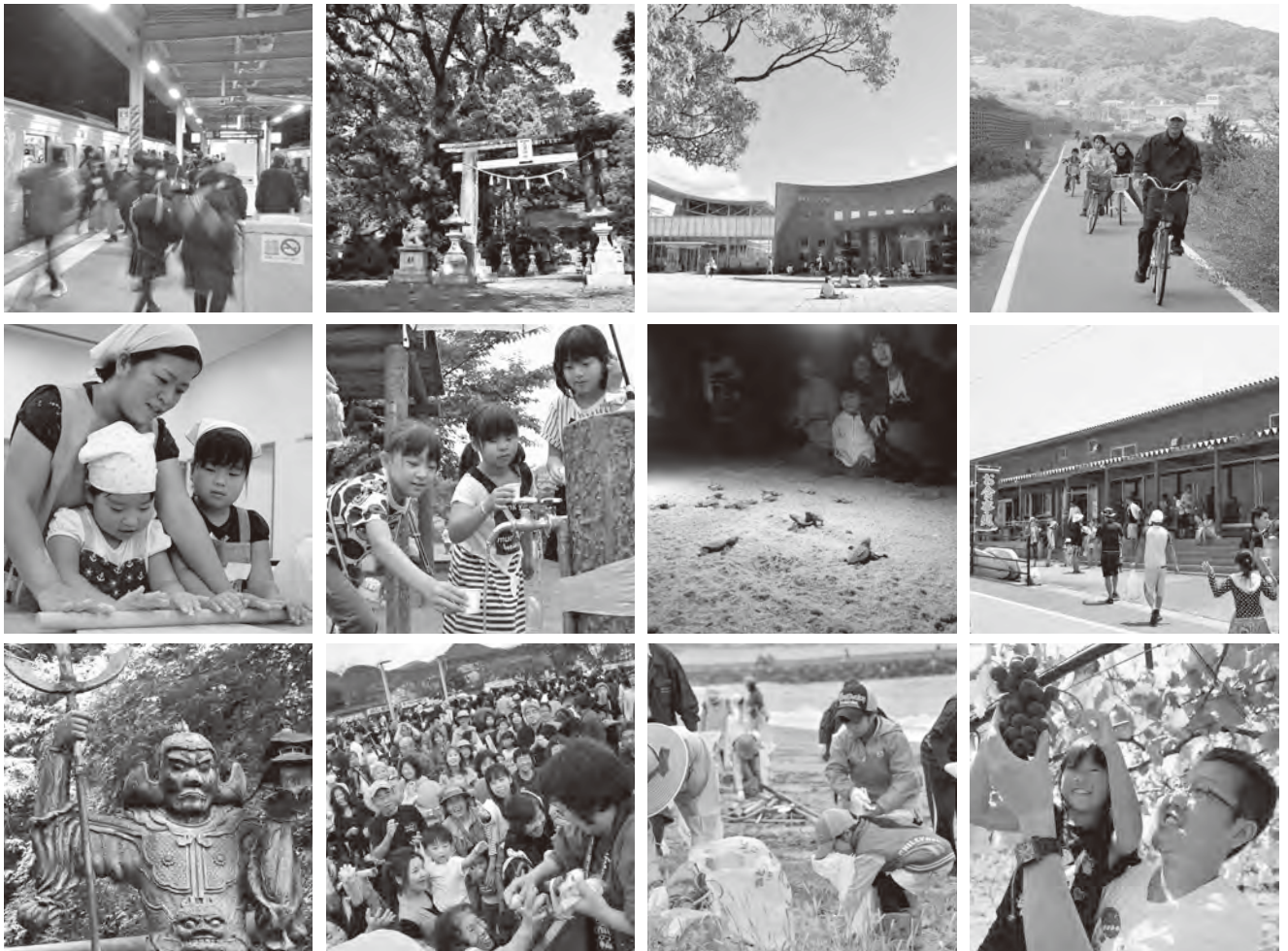


豊かな自然と歴史、文化があふれ
快適に暮らせるまちがここにある

湯川山山頂から見た三里松原海岸。
471mの山頂には、弓状に広がる美しい海岸線を一目見ようと、町内外から多くの登山客が訪れる。



| | | | |
|----|----|----|---|
| 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 7 | 6 | 5 |
| 12 | 11 | 10 | 9 |

1 海岸沿いのサイクリングロード。2 さまざまな文化・スポーツ活動の拠点「岡垣サンリーアイ」。3 千年以上の歴史を持つ高倉神社。4 JR 海老津駅。福岡や北九州に通勤・通学する人でにぎわう。5 夏には多くの家族連れでにぎわう「観光ステーション北斗七星」。6 アカウミガメの旅立ちを間近に見られるのも岡垣ならではの。7 豊富

な地下水が町民の生活を支える。8 町内の公民館では、家族で参加できるイベントが多く催される。9 季節折々のフルーツが楽しめる。10 美しい自然を守るために多くの人が活動に参加している。11 町民の集いの場「まつり岡垣」。12 県指定文化財「毘沙門天立像」。町内には数々の歴史ある文化財が存在する。

たくさんの魅力があふれる岡垣町 なぜこれほどの魅力があるのか

岡垣町。大学がある北九州市から福岡方面に車で向かう途中、道路標識など見かけたことはありませんが、どのような町かは知りませんでした。しかし、この町を訪れ、町内を散策すると、大学からそれほど遠くない場所にこれほどたくさんの魅力があふれている町があることに驚きました。美しい海岸や松原、雄大な山々、そして夏にはホテルの優しい光で包まれる川など、町を囲むように広がる豊かな自然がとても印象的です。また、この自然が、豊富な地下水やおいしいフルーツが育つ環境を生み出しています。

町内には歴史ある神社や寺院、文化財もたくさんあり、この町の歴史を肌で感じる事ができます。さらに、公民館や文化施設を訪れてみると、そこには元気に活動する町の人たちの姿が。町の施設は町民が利用しやすい環境が整い、さまざまな催しが行われています。

これらの自然や歴史、文化がなぜこの町にはあふれているのか。私たちは、この答えを探すため、町で働く人たちに岡垣町のことを尋ねてみることにしました。

住む人の温かさを ふれあいを通じて感じる

海 老津駅に配属となって間もないころは、駅を利用する皆さんにあいさつをしても、軽く会釈をしたり、目を合わさず頭を下げたりする人が多く、岡垣町は、人見知りの人が多いという印象でした。しかし、毎日あいさつを続けていると、次第に声をかけてくれる人が多くなりました。今では、私の体を気遣

う言葉をかけてくれる人や私を自分の孫のようにかわいがってくれる人もいます。時には差し入れやお土産をいただくことも。町の人のふれあいを通じて、この町で暮らす人たちの温かさを感じています。

住んでいる地域が違っていても、人と人がつながっていることも印象的です。以前、

海老津駅がバスツアーを企画したところ、町内のいくつかのグループが参加しました。当日皆さんがバスに乗り込むと、グループ同士が顔見知りだったことには驚きました。

また、海老津駅は、長年にわたり駅のトイレを掃除してくださる人やホームや駅構内の飾りつけをしてくださる皆さんなど、多くのボランティアに支えられています。これも皆さんが、町の玄関口である海老津駅を大切にして感謝している証だと思い、とても感謝しています。



えのき よしあき
榎木 義晃さん

JR 海老津駅駅員。平成 27 年 4 月に同駅に配属。岡垣町の玄関口である JR 海老津駅の顔として、駅を利用する市民の通勤・通学を見守っている。





故郷で暮らす喜びを 自分の子どもにも伝えたい

寒波のとき、空き家や一人暮らしの高齢者が住む家の水道管が破裂しているのを近所の人が見つけ、水道管の元栓を閉めて町に連絡してくれたことが何件もありました。何か特別なことをする意識のない中で、自分の住む地域のことを気遣っている人がたくさんいることが素晴らしいと感じます。

私は幼いころから岡垣町で育ち、学校の授業や友達と遊ぶ中で、自然とたくさん触れ合ってきました。大学に通うため町を離れたのですが、長くは続かず岡垣町に戻ることになりました。高校生のころは、県外に出て、大都市で働こうと考えていましたが、町を離れることで、生まれ育った町の良さを再発見しました。そのときから、

大好きなこの町のために働きたいと思うようになりました。岡垣町には、町で育った人たちを呼び戻す力があるのではないのでしょうか。

幼いころから自然とふれあえる環境は、子どもにとって魅力的な環境だと思います。子育て世代の人たちには、ぜひこの町に住んで欲しいです。また、将来私に子どもができたなら、岡垣町の魅力を伝えたいと思います。そして、私のように岡垣町を愛する人がたくさん増えることを願っています。

みやざき めぐみ
宮崎 恵さん

野間四区在住。海老津小学校、岡垣中学校卒業。学生時代は岡垣町を離れていたが、生まれ育った町のために働きたいという思いから、町職員になることを決意。平成27年に入庁、現在は上下水道課に勤務。



豊かな自然と真剣に向き合うから 町の良さが分かる

日 本海側の海に面し、冬は曇りの日が多い岡垣町は、県内の農業が盛んな地域に比べると、米や野菜を育てるための良い条件がそろっているとは言えません。しかし、農業の担い手が減り、放置された農地が増えている状況を何とか食い止めたいという思いと町の農家の皆さんとの縁もあり、岡垣町で農業を

営むことを決意しました。岡垣町で農業を続けるために必要なのは、やる気と決断力、そして町の自然と真剣に向き合い、農作物の状態や天候を読む力を身に付けることだと思えます。先輩農家の皆さんは、経験が豊富で、町の方候をよく理解し、自然を大切にしています。また、農家としての心構えやさまざまな

技術などを教えてくれます。皆さんからいろいろなことを学びながら、一緒に岡垣町の農業を盛り上げていきたいと思っています。

この町は、新鮮な野菜やくだもの、魚がそろったところが魅力的です。都会過ぎず田舎過ぎないところもいいですね。また、町で働く人同士が仲が良いと思います。私や家族の生活を支えてくれるこの町に恩返しをするためにも、岡垣町で暮らす人たちみんなで力を合わせ、いつまでも元気の町にしていきたいです。

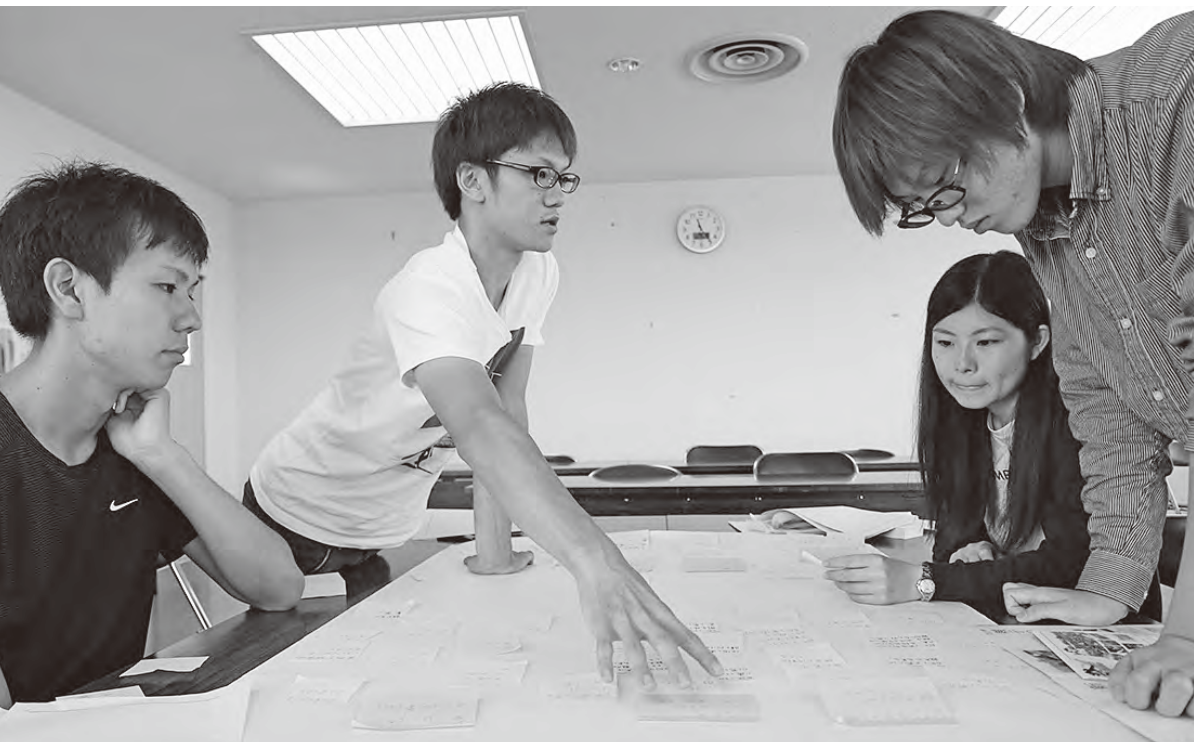


まるうち まこと
丸内 誠さん

高塚区在住。岡垣中学校卒業。10年前から農業を営む。現在は農業法人の一員として、岡垣町の大地で育てた新鮮な野菜などを北九州近郊に出荷している。



暮らす人、働く人が町を大切にしている
これこそが**魅力の源**



九州共立大学 経済学部

原田真緒
上里宗治
竹森恵介
平川貴士
山内峻

町の人たちはこの町のことを尋ねると、皆さんさまざまな魅力を話してくれました。話をすることで印象的だったのが、皆さんの笑顔。その表情から、日ごろから岡垣町を愛し、大切にしていることが伝わってきました。これは、会議室で話し合っても分からなかったことだと思います。町の人と触れ合うことで分かった岡垣町の真の魅力だと確信しました。私たちがこの会話の中で、皆

さんが共通して話してくれたのが「人と人とのつながりが強い」ということ。町で暮らす人がお互いに協力し、助け合いながら暮らしていることが分かりました。自分の住む町を大切に思う思いが、人と人との交流の中で広がっているからこそ、豊かな自然や歴史、文化が守られているのではないのでしょうか。この町で暮らす人がいる限り、これらの魅力は将来に受け継がれていくことでしょう。岡垣町が、いつまでも暮らす人が温かい「ほっとする町」であることを心から願っています。



▲(前列左から)上里、原田、竹森
(後列左から)山内、平川

九州共立大学との 地域連携事業

町と同大学は、平成27年8月に結んだ「包括的地域連携協定」により、さまざまな分野で連携しています。

今回は、5人の学生が広報情報課職員と協力して、会議とインタビューを行い「町の魅力再発見」をテーマにした特集記事づくりに取り組みました。

